

## 説教ワンポイント

ある夜の出来事

ヨハネ三・一〇三

ローマ一〇・二〇〜二五

今日はニコデモという人物が登場します。彼は「フアリサイ派に属」していた。すなわち律法をよく勉強し、生活の隅々にわたり人々を指導する立場だった。さらに「ユダヤ人たちの議員であった」。地位も名誉も尊敬も集めていたことでしょう。その彼に対してイエスは

「はつきり言っておく、人は新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない」。

今のままじゃだめだ、もう一度生まれ変わって出直しなさい！ いきなりストレートパンチ。普段そんなこと言われ慣れていない彼は大層びっくりしたでしょう。だから思わず、「もう一度母の胎内に入って生まれると?」。捨て台詞。イエスはニコデモのどこに問題を感じたのでしょうか。

ニコデモが言ったのは「あなたは神のもとから来られました。神が共にいるから、あのような驚くべきしるしを行えるのです」。正しく完璧な内容。ならばなお、どこに問題が? ひとつだけ思い当たることがあります。

「ある夜」。ニコデモがイエスを訪れた時間です。正しいことならなぜ昼間堂々と来て言わなかったのでしょうか。彼はイエスを尊敬していた。どうしても会って言いたかった。そのことはいい。しかし、なぜ「夜」だった? 人に見られなくなかったのです。知られたら自分の地位や名誉が覆るかもしれないと思ったのでしょうか。そこに彼の解決できない問題がありました。

「実に人は心で信じて義とされ、口で公に言い表して救われる」(ローマ)。信仰は心の中にある。しかし、救いはそれを表に出す時訪れる。なぜなら、救いはいつも現実のただ中で起こるから。イエスはニコデモを救いたかったのです。